学生島活プロジェクト

東育美，中村環，楢崎樹佳，福富日奈歩（安枝ゼミ），伊澤友美（太田ゼミ），
床鍋明日香，垣本彩織，矢内葵（木村敏文ゼミ），濱田育生（荘所ゼミ），
兵佐勇哉（山瀬ゼミ），松田晃（宇高ゼミ），山本直明（大橋ゼミ），太田尚孝

キーワード：空き家，改修，DIY，家島

1. プロジェクト概要

1.1　プロジェクトについて

本プロジェクトは 2025 年度特別 FW「空き家再生実践演習」（1 単位）の一環としておこなった。

本特別 FW は，3 年生以上の学生であれば，系やゼミに関係なく履修することができる。授業の目的は，空き家が社会問題化している家島をフィールドに，空き家改修の実体験を通して，空き家の再生の実情を知るとともに，必要な技術や知識を実践的に学ぶことである。今年度は，過去最多の 12 名が活動に参加した。

1.2　家島とは

家島は，瀬戸内海東部の播磨湾に浮かぶ 44 の島からなる諸島である。そのうち家島本島，男鹿(たんが)島，坊勢（ぼうぜ）島，西島の 4 つの島が友人島であり，人口は合わせて 4500 人ほど，このうち約 2200 人が家島本島に住んでいる。(いえしまコンシェルジュ HP [1])より）

1.3　いえしまコンシェルジュとは

いえしまコンシェルジュは家島の暮らしと観光客をつなぐ案内人である。家島の総合的な観光コーディネーターを養成し，地域の空き家をゲストハウスとして活用している。

2. 活動内容・成果

2.1 家島での活動内容

家島では計 4 日間活動し，一度，事前のオンラインミーティングを行った。

まずは，2025 年 7 月 25 日にオンランミーティングを行った。自己紹介，大まかな活動の内容などの情報を共有し、不安点解消を行った。今年度はウッドデッキを作成し，地域に開かれた交流スペースとして利用することが決まった。

写真 1　木材を切断する様子

9 月 3 日は，事前作業準備として木材に防腐塗料を塗った。今回作成するウッドデッキは，建物の外部で利用され，普段は雨風にさらされるため，重要な作業の一つであった。

9 月 16 日，9 月 17 日は，自己紹介を兼ねた小ゲームから始まった。全員の名前を積み木のように重ねていっていくものであったが，見事に一発クリアすることができ，幸先のよいスタートであった。その後，チーム分けを行った。主に，寸法を測るチーム，木を切るチーム，塗料を塗るチームの三つに分かれた。まず作成したのは，束からであった。ウッドデッキの設置場所には勾配と，段差があり，束の長さによって水平をとらなければいけないことが難しかった。また，材木の量も限られていたことと，失敗してもどうにかできるように，長い寸法の材から作成した。また，束の底部には，ゴムの土台を貼り付け，束に固定した。次に作成したのが，梁である。木造住宅と同様に，大引き，根太と作っていく。また，一泊二日での泊りがけでの作業という事もあり，途中で，米を炊いたり，お皿を洗ったり，昼食の買い出しに行ったりと様々な役割があったが，うまく協力しあうことができた。そして，昼食には地元の魚さんで買った新鮮な魚の刺身をいただいた。新鮮な魚でとてもおいしかった。また，家島で作られて

いる塩をつける食べ方もおいしかった。コンシェルジュの方はおいしい魚を食られるのが家島の魅力の一つとお話されていた。

そして，この日の作業は束を配置したところで，終わった。作業後は，男女に分かれて「晴れテラス」「ヨカテラス」という空き家をリノベーションした施設にて過ごした。内装はとてもきれいで，おしゃれなものであった。改修する前の構造体を活用しているということもあり，どこか時間がたっていることを感じさせるデザインでもあった。

二日目は，板材の作成をしながら，束の上に梁を乗せていった。梁は一つの材の長さが長いため一発勝負の作業の連続であり，緊張感と，責任感を感じさせられる作業であった。図面通りには，なかなか作る事ができず，その場その場で，話し合いながら，解決策を見つけていく事も面白かった。最後に板材を乗せた。敷地の形状に合わせるために，板材の端部を斜めにカットしないといけないところが非常に難しかったが，実際に合わせてみるとうまく木材と壁とがうまく合った。板材の10%程度をビス止めし，二日目の作業が終了した。

10 月 17 日は，板材のビス止めを行い，ウッドデッキを完成させた。板材の微調整や貼り付けなど，細かい作業が続いたが，即席でスペーサーを作製し，等間隔で板を張るなど工夫した。

写真 2　ウッドデッキを組み立てる様子

2.2 フォーラム発表

これらの家島での活動について，12 月 4 日に開催された環境人間学フォーラムにてポスター発表を行った（図 1）。ポスター発表に加えて，活動についての質疑応答も行った。様々な方からの質問や意見などから，活動を伝えることと同時に活動への理解を深めることができた。

図 1　環境人間学フォーラムのポスター

3. 今後について

今回の空き家改修では，前年度に引き続き，改修後の空き家に学生が宿泊して現地調査などの拠点になることを目指した。そこで，お茶会を開くなど，地域住民も気軽に集まる交流をつくるため，道に面して縁側のようなウッドデッキを設置することにした。普段では体験できないことを体験しながら，空き家の実態や改修の大変さ，家島の魅力を知ることができた。

4. 謝辞

今回の授業を行うにあたり，多くの方々にご指導，ご協力いただきました。いえしまコンシュルジュの中西さん，麻田さん，藤田さん，太田先生，木村敏文先生に心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。

引用文献

1)いえしまコンシュルジュ HP:https://ieshimacon.com